

平成 26 年（2014 年）の雲仙岳の火山活動

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○発表中の火山現象に関する警報等及び噴火警戒レベル

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 17 分	噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）
----------------------------	--------------------

○ 2014 年の活動状況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度でした。

*気象庁野岳遠望カメラ障害のため、雲仙復興事務所岩床山監視カメラで噴気の有無を観測しています。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③、図 3、表 1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は、平成新山付近の海拔下 0～3 km に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 雲仙岳 噴気の状態
(11 月 27 日、雲仙復興事務所岩床山監視カメラによる)

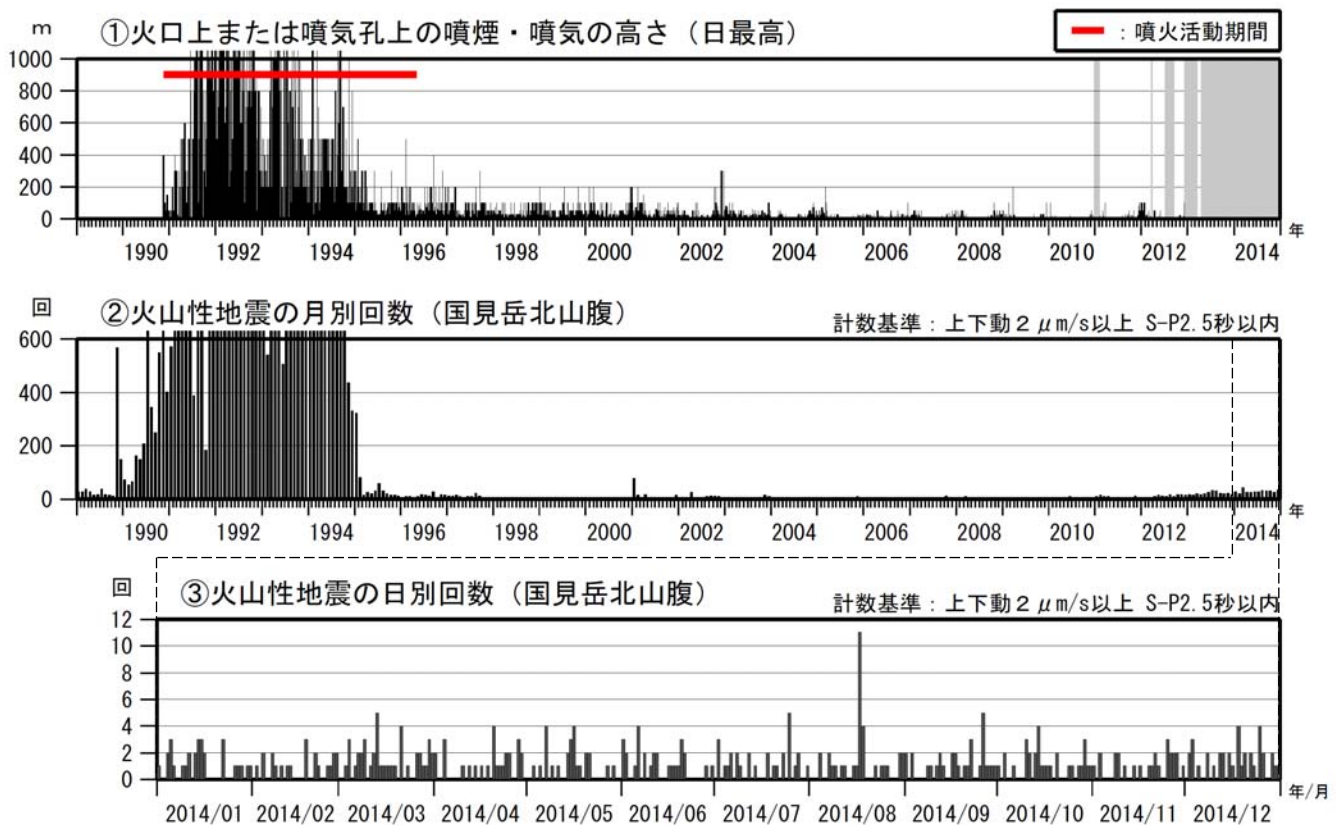


図 2 雲仙岳 火山活動経過図 (1989 年 1 月～2014 年 12 月)

<2014 年の状況>

1995 年 2 月の噴火活動停止以降、噴煙活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

火山性地震の回数については、2012 年 8 月 31 日までは矢岳南西山腹の計数基準 (上下動 $5 \mu\text{m/s}$ 以上) で計数しています。灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測を示しています。

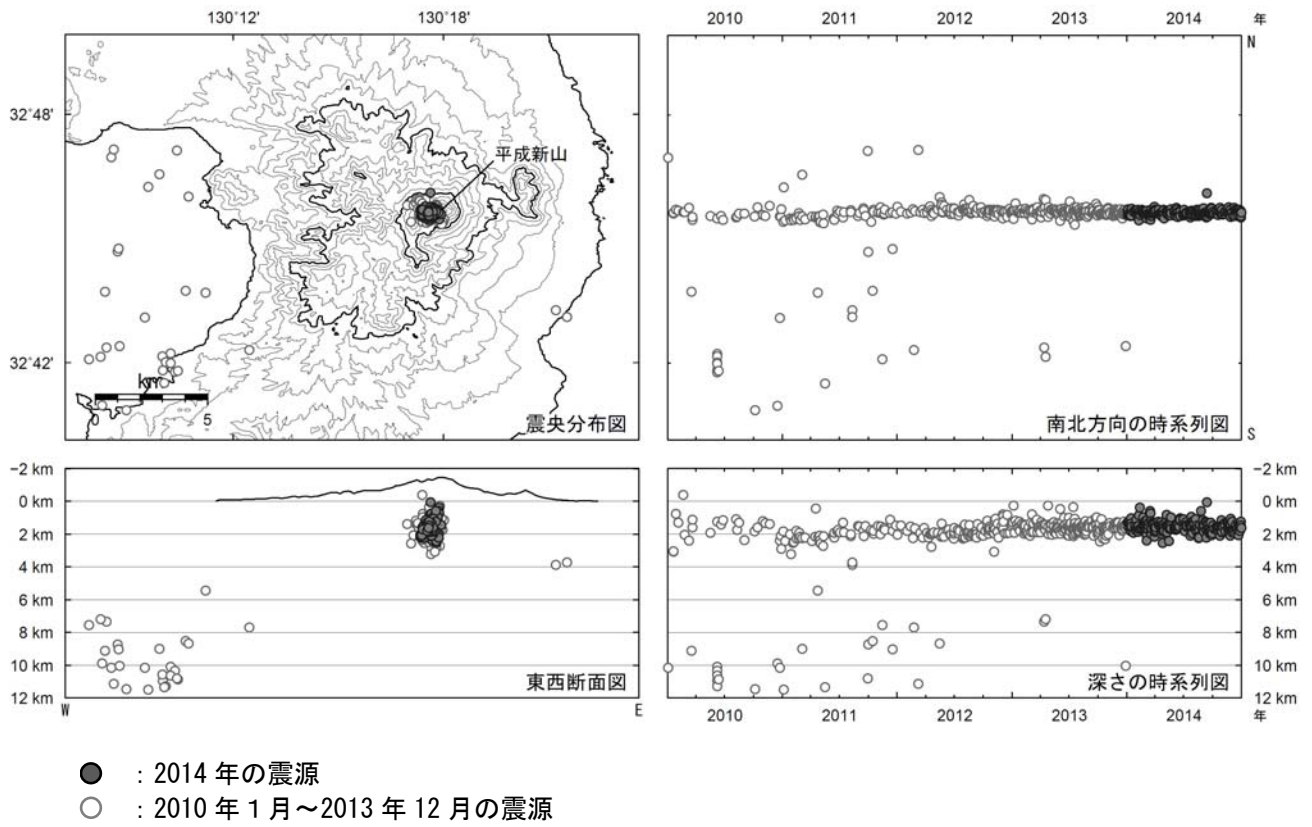


図 3 雲仙岳 火山性地震の震源分布図 (2010 年 1 月～2014 年 12 月)

<2014 年の状況>

震源は、平成新山付近の海拔下 0～3 km に分布しました。

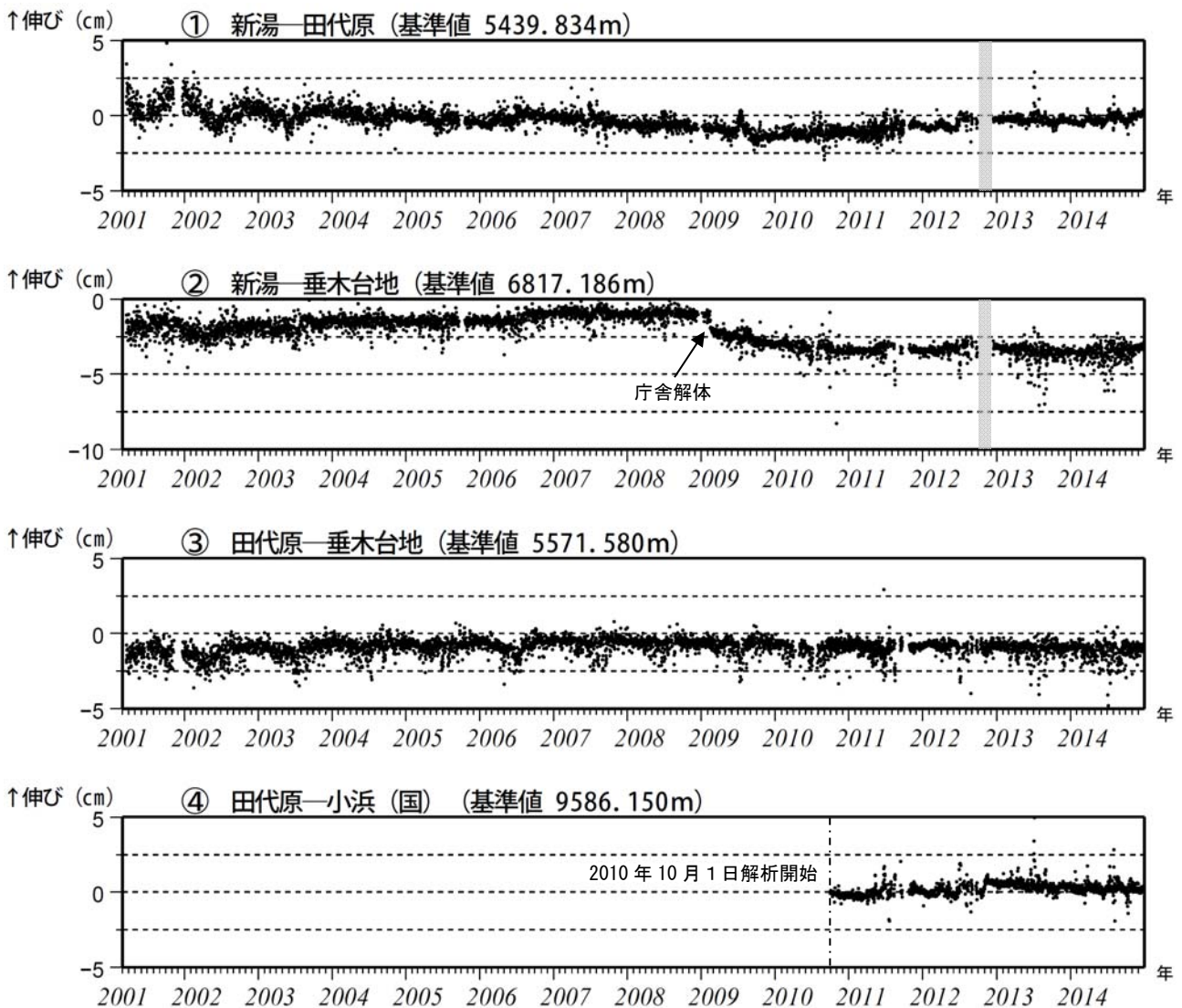


図 4 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化 (2001年3月～2014年12月)

<2014年の状況>

GNSS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

これらの基線は図 5 の①～④に対応しています。

②の基線にみられる 2009 年 2 月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

表1 雲仙岳 2014年火山性地震日別回数

日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	1	0	0	2	0	3	0	0	2	1	1	0
2日	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	2
3日	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	2	3
4日	2	2	3	3	0	0	1	2	0	0	0	0
5日	3	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1
6日	1	0	1	0	0	4	2	0	0	1	0	0
7日	0	2	2	0	4	0	0	2	0	0	0	0
8日	0	1	2	0	0	2	2	1	1	0	2	2
9日	1	0	3	0	1	0	1	1	1	0	2	0
10日	1	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0	1
11日	2	0	1	0	1	2	0	1	1	2	1	0
12日	0	1	2	1	0	2	2	1	2	0	0	2
13日	2	1	5	0	0	0	0	0	1	2	0	2
14日	3	0	1	1	2	0	1	0	0	4	1	0
15日	3	0	1	0	3	0	0	1	0	1	0	2
16日	2	0	1	1	4	1	0	1	2	1	1	1
17日	0	0	1	0	1	1	0	11	2	1	0	0
18日	0	3	1	1	1	1	2	4	1	1	0	4
19日	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1
20日	0	0	0	4	2	3	1	0	1	2	1	2
21日	0	2	4	1	2	2	1	0	1	0	2	0
22日	3	1	0	1	0	0	0	1	3	0	1	2
23日	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1
24日	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0
25日	0	1	0	2	0	0	5	1	1	1	3	4
26日	1	1	2	0	0	0	0	1	5	0	2	2
27日	1	2	2	0	1	0	1	0	1	1	2	0
28日	1	2	1	3	0	1	2	0	1	1	2	0
29日	0		1	2	1	0	0	0	1	3	0	2
30日	1		3	0	0	1	0	2	1	1	1	1
31日	1		2		0		1	2		1		1
月合計	29	21	42	26	25	28	28	33	30	30	25	36
年合計	353											

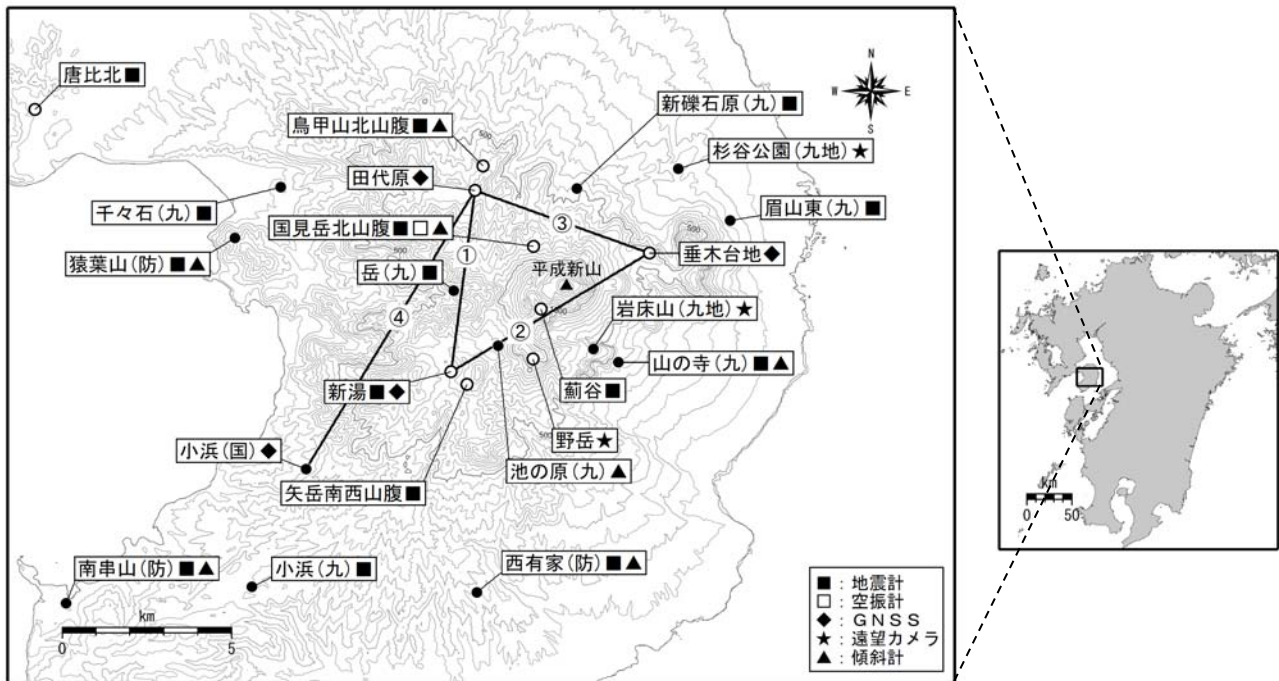


図 5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学、(防)：防災科学技術研究所

表 2 雲仙岳 気象庁 (火山) 観測点一覧 (緯度・経度は世界測地系)

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月	備考
		緯度 (° ')	経度 (° ')	標高 (m)			
地震計	新湯	32° 44. 30'	130° 15. 75'	678	0	1994. 3. 25	長周期
	矢岳南西山腹	32° 44. 10'	130° 16. 05'	769	0	1967. 4. 1	短周期
	国見岳北山腹	32° 46. 31'	130° 17. 31'	834	-124	2010. 12. 1	短周期
	鳥甲山北山腹	32° 47. 60'	130° 16. 35'	655	-157	1992. 5. 20	短周期
	薊谷	32° 45. 30'	130° 17. 45'	1, 075	0	1997. 4. 1	短周期
	唐比北	32° 48. 50'	130° 07. 87'	66	0	1992. 4. 4	短周期
空振計	国見岳北山腹	32° 46. 3'	130° 17. 3'	834	2	2010. 12. 1	
GNSS	新湯	32° 44. 3'	130° 15. 8'	678	2	2001. 3. 1	二周波
	垂木台地	32° 46. 2'	130° 19. 5'	586	2	2001. 3. 1	二周波
	田代原	32° 47. 2'	130° 16. 2'	640	2	2001. 3. 1	二周波
傾斜計	国見岳北山腹	32° 46. 3'	130° 17. 3'	834	-124	2010. 4. 1	
	鳥甲山北山腹	32° 47. 6'	130° 16. 4'	655	-157	1992. 5. 20	
遠望カメラ	野岳	32° 44. 5'	130° 17. 3'	1, 120	22	2002. 1	高感度カメラ